

(株) NTTデータ数理システム 2022年度学生研究奨励賞

コロニアル・フィルム・ユニットがもたらす映画の視聴体験  
ー 植民地映画に関するテキストマイニング分析 ー

---

東京理科大学 経営学研究科 経営学専攻  
五天 滉介

## 目次

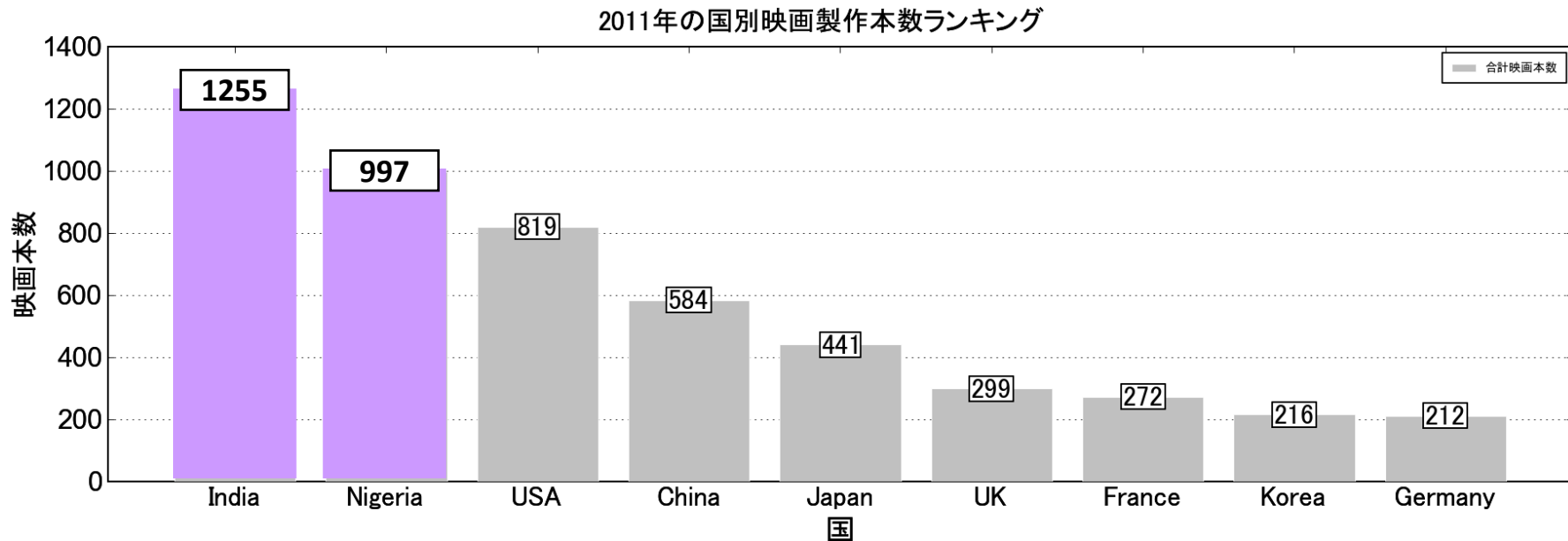
1. 研究背景
2. 理論と研究目的
3. データ概要
4. 分析
  - 4-1. 植民地全体のプロパガンダ政策分析
  - 4-2. ナイジェリアのプロパガンダ映画分析
  - 4-3. アジア植民地・アフリカ植民地のプロパガンダ政策の比較分析
5. 結果と今後の研究の発展
6. 参考文献

# 目次

## 1. 研究背景

## はじめに

## 2011年における世界映画製作本数ランキングにおいて



経済規模が大きいアメリカ・中国・日本を上回って  
旧イギリス植民地のインドとナイジェリアが映画製作本数ランキング1,2位

➡ イギリスが行っていたプロパガンダ映画政策が関係している可能性

# プロパガンダと映画の歴史

## プロパガンダとは

大衆の興味関心や態度を、力ではなくメディアなどを用いて意図的に管理・操作すること (Laswell, 1947)

- 視覚的・聴覚的要素に加えて、娯楽的要素を持つことから映画は影響力のあるプロパガンダチャンネルとして採用されていた

## ● 映画の誕生とプロパガンダ映画の普及

1895年: フランスで映画誕生しその後イギリス・ロシア・日本で公開

1898年: 米西戦争で初めて映画のプロパガンダ的利用

(キム, 2010)

(Bottomore, 2007)

大戦の激化と映画製作技術の発展

1930年: 文化的な統治と近代文化の移植を目的とした

プロパガンダ映画政策が植民地で行われ始める

- 多くの植民地にプロパガンダ映画が普及

植民地下における映画産業の誕生・発展には  
プロパガンダ映画政策が大きく関係

# イギリスのプロパガンダ映画政策の種類

イギリスのプロパガンダ映画政策は2つに分けられると考えられる

## ①戦争・衛生・教育に関するプロパガンダ映画を公開

- 戦争に対する機運・衛生や保健的知識・発展の元となる基礎的教育に関する知識を植民地住民に与えるコミュニケーション・チャンネルとして映画を使用
- 識字率が低い植民地住民に対して、娯楽を含めた知識伝達を行えることから有用な手段として評価

ガーナ: 1941年までに人口の約15パーセントがプロパガンダ映画を視聴(Smyth, 1979)

## ②プロパガンダ映画の普及・製作を行う専門機関CFUの設置

- プロパガンダ映画の製作のみならずプロパガンダ映画に関する機関紙の発行や周辺国の学生を集めて映画製作方法の伝授する学校の開校を行っていた(Seller, 1953)
  - アフリカだけでなくアジア・西インド諸島など**プロパガンダを注力したい植民地**にのみ設置
- 上映機材を積んでいる車Cinema Vanを用いて映画館がない農村などにも公開(Seller, 1953)
- 現地に映画製作拠点CFUを置き、現地の職員を採用することにより植民地の環境・状況に則したプロパガンダ映画の製作が可能になる(Seller, 1953)

ジャマイカ:観光業との結びつきベルリン国際映画祭にて公開される映画製作(Francis, 2011)

マレーシア:冷戦の影響で反共産主義的なプロパガンダ映画が作成(Hee, 2017)

# 目次

## 2.理論と研究目的

# プロパガンダ映画政策とイノベーション普及

- プロパガンダ映画政策は**映画というイノベーションを普及するための活動**
  - 映画産業草創期の植民地に対してイギリスは、プロパガンダを目的に多くの映画の輸入・公開をし普及を図った
- イノベーションに基づく製品の商業化には**技術的知識と市場的知識が必要であり** (Kogut&Zander, 1992)、**市場的知識の一つに現地で調達する原材料供給者に関する知識がある** (Leiponen, 2002)
  - プロパガンダ映画における市場的知識とは、植民地現地の状況・環境に則した知識  
Ex.) 現地の農業・土地に関する知識・戦争の状況・疫病

植民地における市場的知識は植民地住民に対する知識であり、植民地住民の生活に則した映画(=ローカライズされたプロパガンダ映画)が普及しやすい市場的な知識を含んだプロパガンダ映画と考えられる

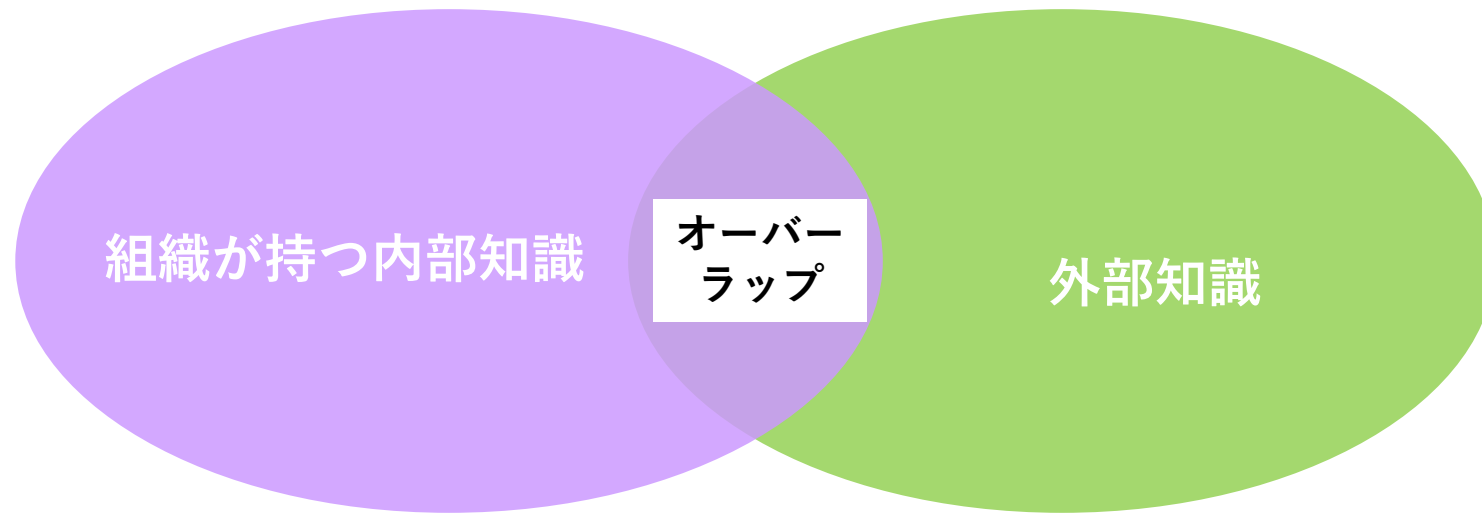
- これはRogers が唱えるイノベーションの普及のための要素である「イノベーションの両立可能性」の示唆とも一致
  - イノベーションが既存の価値観や過去の体験・社会文化的価値や信条と相反しないとされる程度のこと (Rogers, 1995)。



# 知識吸収能力理論

- 知識吸収能力理論 (Absorptive capacity)

組織が新しい知識を取込むためには、取り込みたい新しい知識がすでに持っている知識とオーバーラップしていることが必要 (Cohen and Levinthal, 1990)



- 市場的知識を反映したプロパガンダ映画は、植民地住民との知識のオーバーラップを生み出し、プロパガンダに関する知識の移転に貢献



知識の移転は映画視聴体験の質を高め、映画の普及に貢献

## 技術的知識を含むプロパガンダ映画の例

- イギリスが植民地にて公開したプロパガンダ映画の例として

映画タイトル:AFRICAN PEASANT FARMS - THE KINGOLWIRA EXPERIMENT

公開年度:1936年 公開国:Sudan

**概要:**映画は、標識柱を見ているところから始まる。アフリカ人(植民地住民)はその方向に向かって歩き出し、新しい入植者が無料の資材で小屋を建てているところに出会う。そして、すでに農業を始めている入植者のところに連れて行かれる。地元の人たちが伝統的な衣装を着て太鼓を叩き、少女が踊る中、報酬としてビールが無料で提供され、共同して土地を切り開く。飢饉のためにキャッサバを各小屋の周りに1エーカー植えること綿花栽培や輪作の原理が説明される。そして、牛で土を耕し、牛小屋から共同の荷車で肥料を運んでいるのを見る彼は、診療所を訪れ、最終的に農場を申し込むことにした

出典: <http://www.colonialfilm.org.uk/node/230>

- ▶ 主人公のアフリカ人起用や、現地の衣装での演奏やダンスシーンなど映画内に植民地における市場的な知識を取り入れて、オーバーラップを生み出し農業の知識を植民地住民に吸収させようとする映画である

# プロパガンダ映画が植民地住民に受容されない例

- 市場的知識がオーバーラップがなく、プロパガンダに関する知識移転が失敗した例として

ナイジェリアで作られた健康・衛生を促進するための映画『Machi Gaba』を北ローデシアにて公開をした際

「ナイジェリア先住民のキャラクターが北ローデシアの人々には異質で、ナイジェリアの人々の服装・衣装が滑稽に感じ、清潔な村の生活が健康な生活をもたらすことを教えられる代わりに、ナイジェリア人はおかしな人たちだという考えが残ってしまった」(Newell, 2017) という事があった

- 異なる国の市場的知識(ナイジェリアの市場的知識)が反映された映画が北ローデシア植民地で公開されたことにより、プロパガンダに関する知識移転が失敗した

# 研究の目的

---

プロパガンダ映画政策は、映画というイノベーションを普及するための活動であり、市場的な知識を含むプロパガンダ映画は、植民地住民にとり、より大きな影響をもたらすイノベーションの普及を促進に貢献したと考えられる

## 研究目的

市場的知識と技術的知識の影響により、植民地下における映画というイノベーションが採用されるメカニズムを実証する

# 目次

## 3. データ概要

# 使用データベース

## Colonial Film Database からデータを取得

- 80のイギリス植民地下で公開された映画に関するデータベース

### Film Title XXXXX



<b>TITLES</b>	
タイトル名	
<b>TECHNICAL DATA</b>	
Year:	19XX
Running Time:	XX minutes
Film Gauge(Format):	XX mm Film
Colour:	Black/White
Sound:	Silent
Footage:	XXXX ft
<b>PRODUCTION CREDIT</b>	
Production Countries:	Great Britain
Sponsor:	XXX Association
<b>COUNTRIES</b>	
XXXXXXXX	
<b>THEME</b>	
XXXXXXXX	
<b>GENRE</b>	
XXXXXX	

### SYNOPSIS

---

### CONTEXT

---

### ANALYSIS

---

### WORK CITED

右図は[Colonial Film Database](http://www.colonialfilm.org.uk)をもとに図を作成

データベースから以下が取得可能

- 公開年度
- 公開時間
- フィルムのジャンル
- 映画の色(Ex.白黒,カラー)
- 映画の音声(Ex.音あり,音無し)
- 製作国
- 公開国
- スポンサー
- ジャンル

# 使用データ

- Colonial Film Databaseから以下のデータ項目を取得

映画タイトル	公開年度	公開国	概要	公開時間	映画カラー	映画音声
MARCH OF TIME 2ND YEAR NO. 9	1937	Bermuda	Survey of the production and consumption of milk in US rapid growth of the winter holiday institution in US preparations for the 1937 Coronation.	24 minutes	Black/White	Sound
MURDER IN BERMUDA (Alternative)	1944	Bermuda	Investigation of a series of murders of people who have paid into a fund to go to the one who survives.	66 minutes		
RELAX, RELAX	1962	Bermuda	A light-hearted look at different ways people relax. Lilia Tougher, a teacher in the village of Great Hanwood, near Shrewsbury, and her husband Laurience are members of the English Westerners society, and dress up as Sioux Indians. (以下略)	8 minutes	Color	Sound
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...

映画の内容を示す項目

# 植民地の基本情報

## イギリス植民地の地域と映画本数

地域区分	植民地数	地域別映画本数
アフリカ	22	1,301
アジア	17	1,505
アメリカ大陸(カリブ海を含む)	24	273
南アメリカ大陸	1	3
ヨーロッパ	3	71
太平洋諸島	12	85
その他(公開国が不明)	—	2,809
総植民地数	79	6,047

➤ アジアが最も映画本数が多いが、インド単体で669本公開されているため実質プロパガンダ映画が多く公開された国がある地域は、アフリカ大陸

- 植民地で公開された全プロパガンダ映画6047本の概要テキストデータの分析

項目	値
総行数 (総映画本数)	6,047
平均行数 (文字数)	1,486.1
総文章数	90,380
平均文章長 (文字数)	99.4
延べ単語数	1,138,240
単語種別数	168,081

延べ単語数は1,138,240単語、  
単語種別数は168,081単語



# 目次

## 4-1. 植民地全体のプロパガンダ政策 分析

- 分析ツール

Text Mining Studio7.1.1 英語アドオン を使用

- 分析手法

Text Mining Studio7.1.1を用いて

- ビジュアル集計
- 単語頻度解析
- 共起ネットワーク を使用

# 植民地における技術導入の分析方法

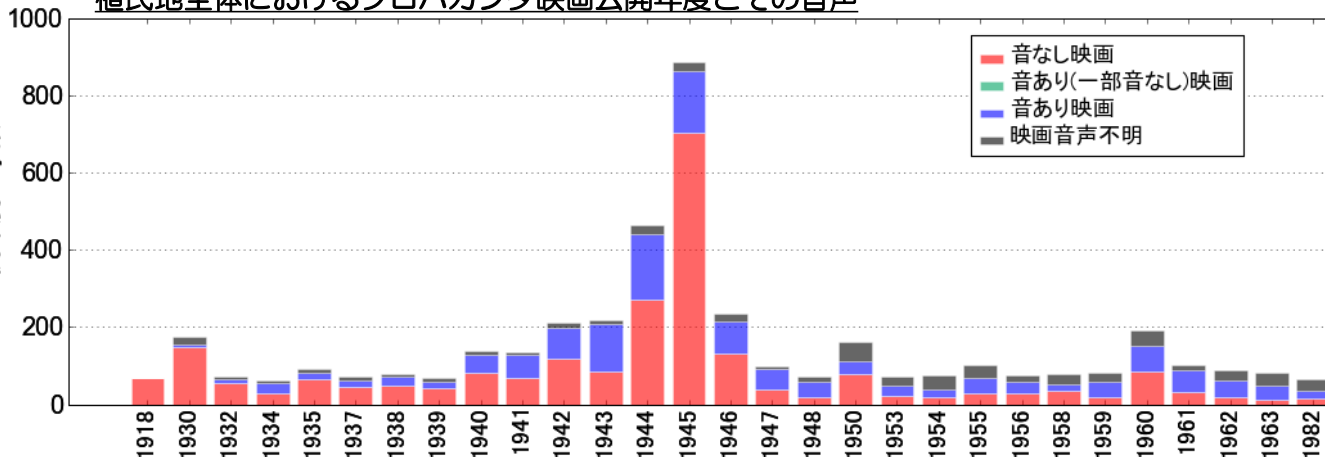
- 本研究では映画のイノベーションの普及の度合いを映画公開本数と映画技術の導入の速度と定義し、TMSのビジュアル集計を用いて映画のカラー・音声ありが採用されている年度を測定

## 植民地下における映画技術の導入を示す指標

- スライド15の【映画カラー】(カラーや白黒)
  - カラー付きの映画を早い年度に公開されている国は映画技術が早い
- スライド15の【映画音声】(映画の音声あり/なし)
  - 音声ありの映画を早い年度に公開されている国は映画技術が早い

⇒二つの指標から植民地下における映画に関する技術導入の速度を分析

植民地全体におけるプロパガンダ映画公開年度とその音声



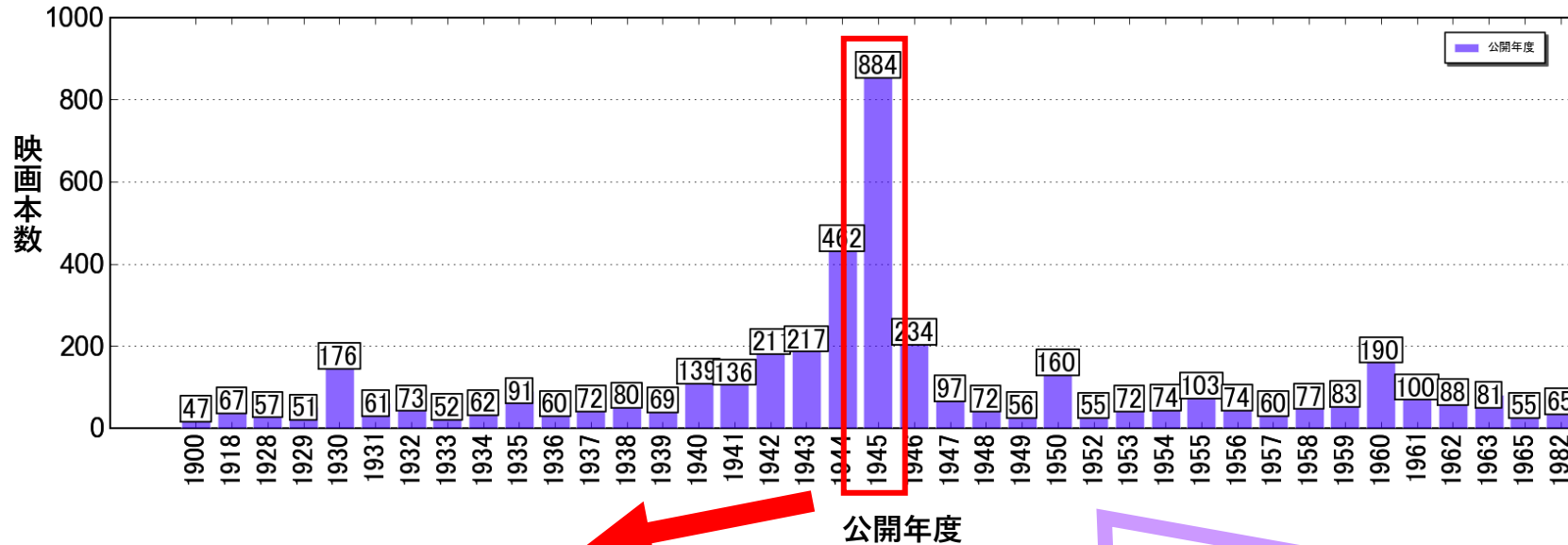
右のようなビジュアル集計表から音なし映画から音あり映画に移りあわるタイミングを見る

- 左スライドでは、40年から音あり映画が増えている

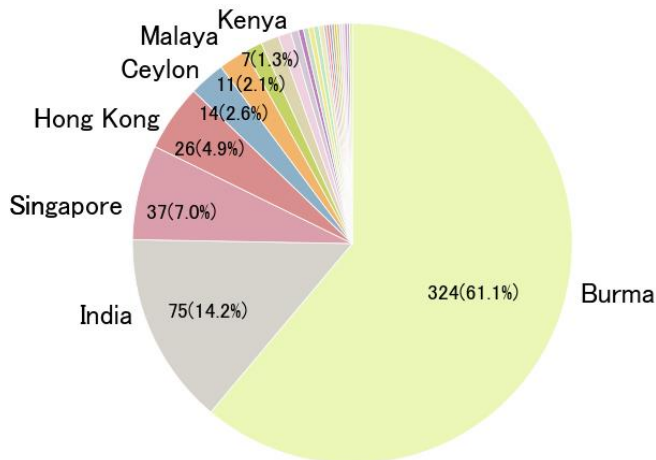


# 植民地全体のプロパガンダ映画と公開年度

## 植民地全体におけるプロパガンダ映画公開本数と公開年度



## 1945年の植民地別公開本数

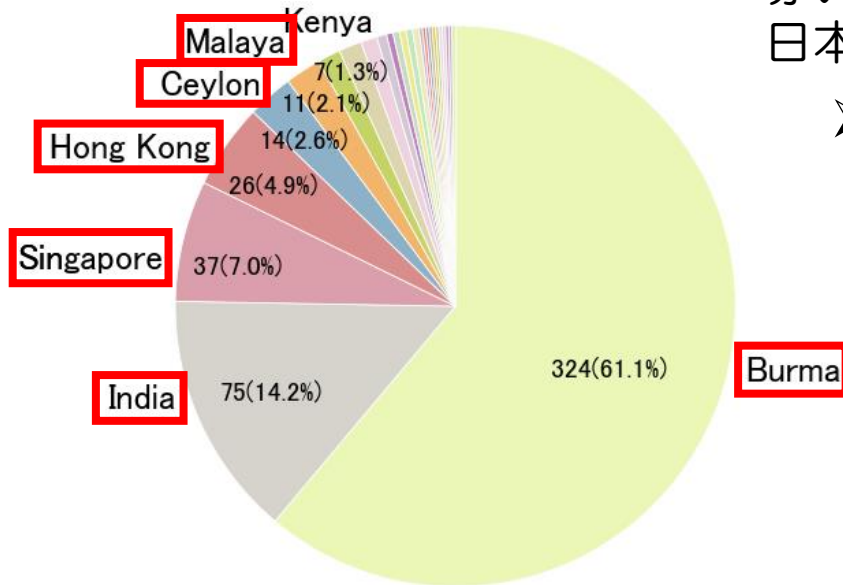


1940年から公開映画が増え始め、  
1945年に最高公開本数を記録  
又、多くのアフリカ植民地が独立している  
1960年も多く映画が公開されている

- 植民地Bruma(現:Myanmar)が一番多い  
⇒1940年から東アジアを主戦場として  
イギリス軍と日本軍が戦う”ビルマの戦い”  
が行われた。(次スライドでより詳細に分析)

# 1945年の映画製作本数と考察

## 植民地で最も多く映画が公開された1945年の植民地別公開本数ランキング



赤い枠の国は、太平洋戦争(1941-45年)における日本とイギリスとの領土戦争が起こった国

- プロパガンダ映画公開本数と戦争には関係があることが分かる



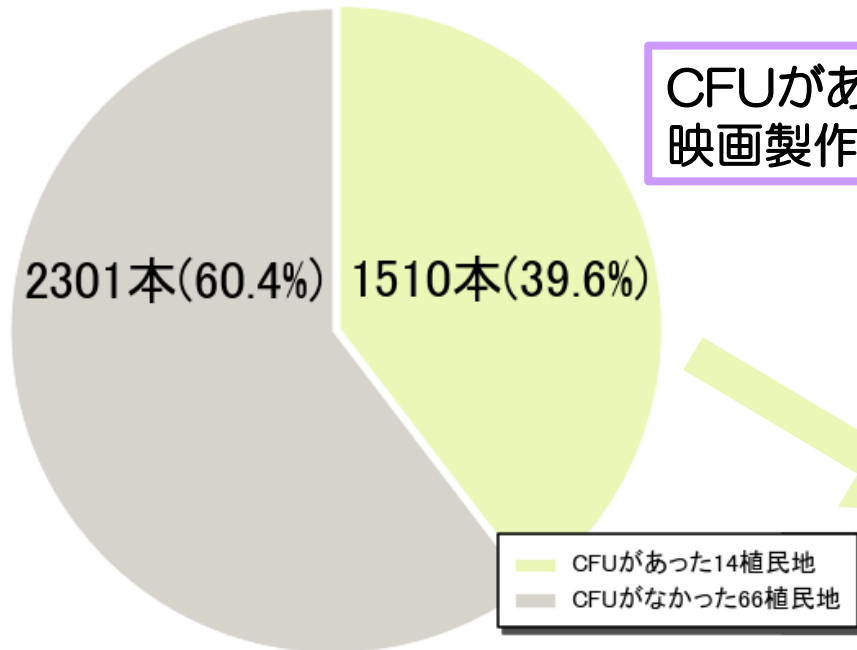
戦争はプロパガンダ映画の内容にも影響がある可能性

- 太平洋戦争の戦場であったアジアでは戦争に関するプロパガンダ映画が多く公開されていると考えられる

- 太平洋戦争の戦場となっていないアフリカの植民地とアジア植民地においてはプロパガンダ映画政策は異なる可能性

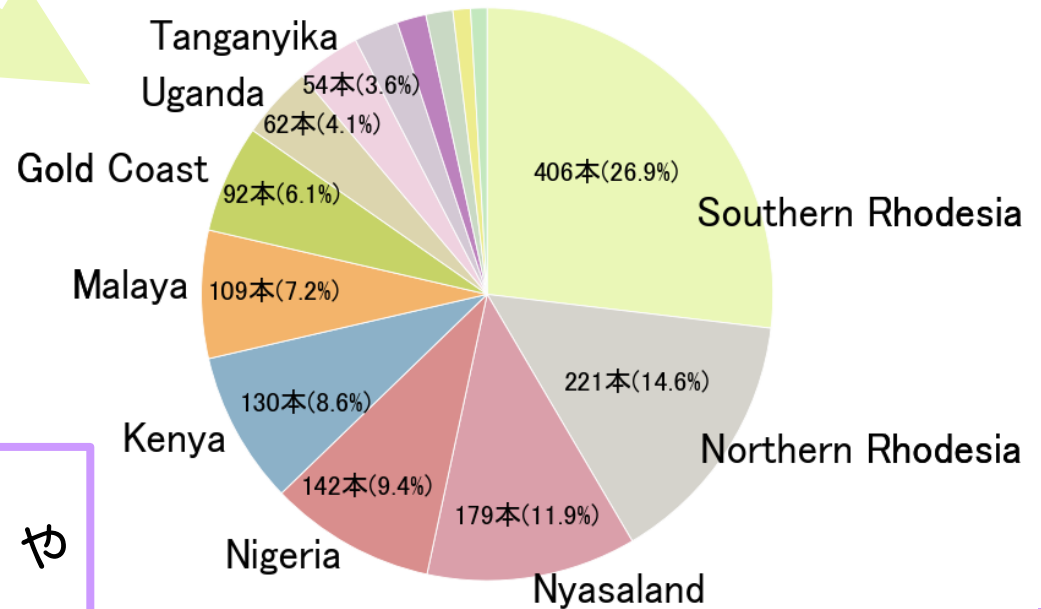
# CFUと植民地下における映画本数

## 植民地全体で公開された映画本数



CFUがあった国は全体の23%に対して映画製作本数は全体の40%を占めている

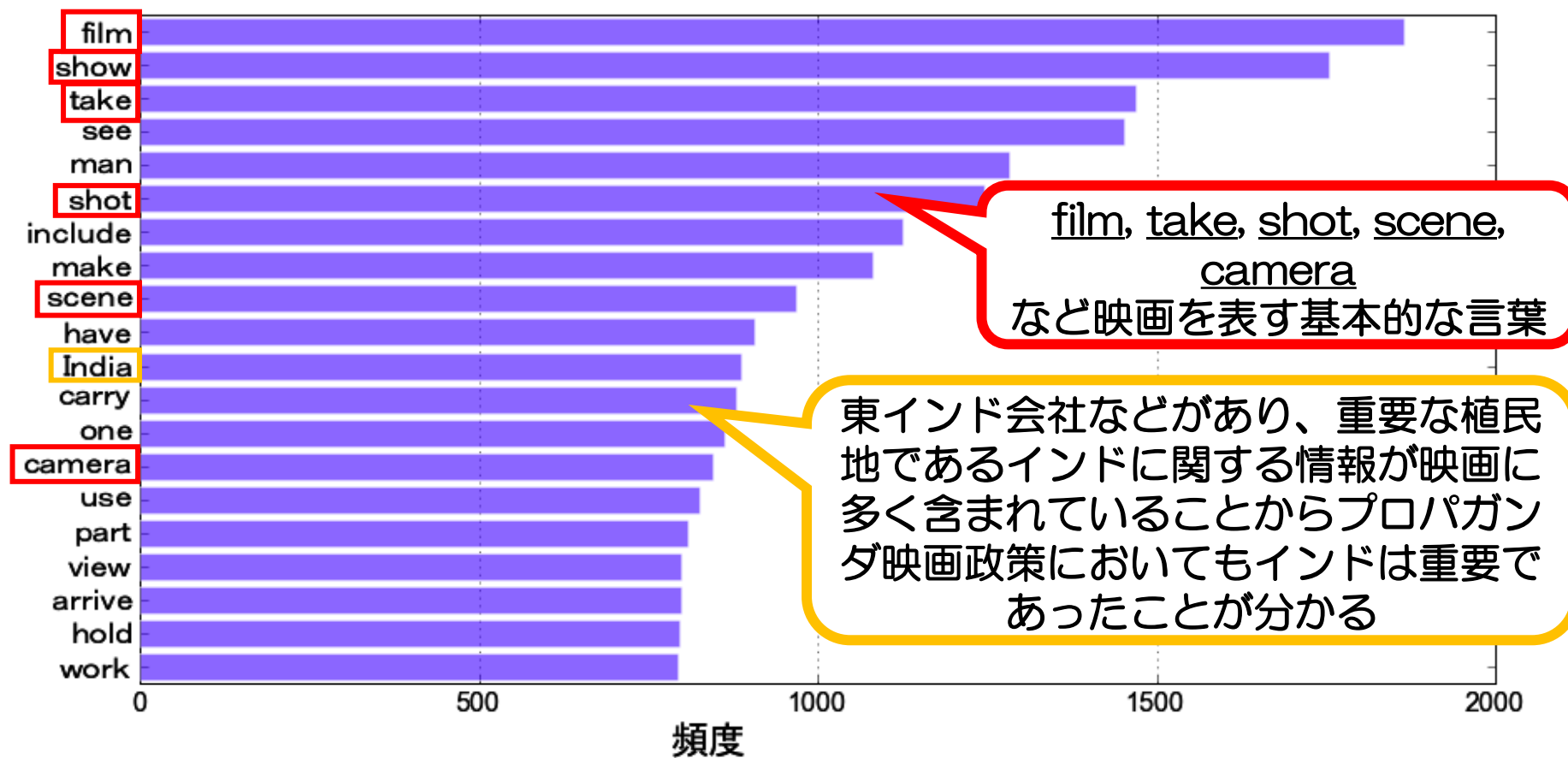
## CFUがあった植民地で公開された映画本数



上位5か国はアフリカ大陸の植民地  
アジアは6位のMalaya(現マレーシア)や  
10位のジャマイカがある

## 植民地全体における映画概要の単語頻度

植民地全体の映画概要の単語頻度

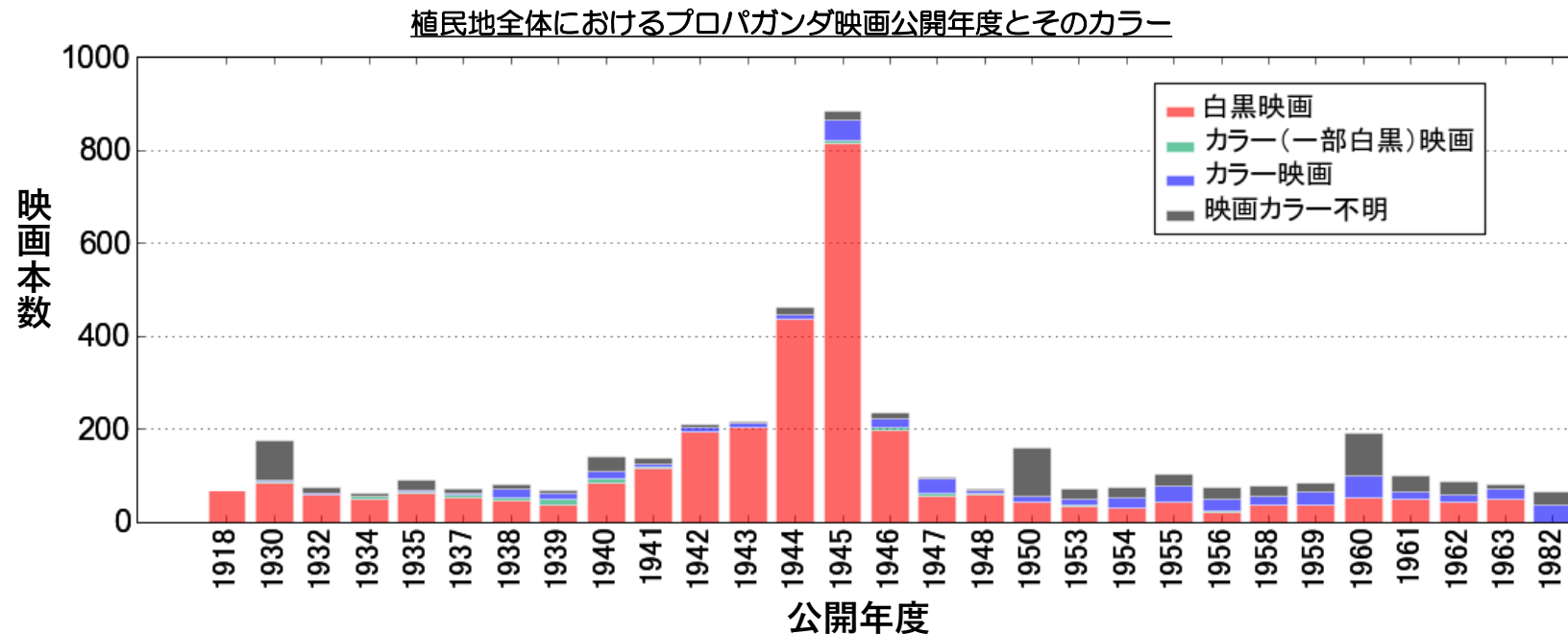




## 植民地全体における公開年度と映画カラー

- 植民地全体で公開された映画の年度と映画カラーに着目
  - 公開された映画は、白黒映画・カラー(一部白黒)映画・カラー映画に分類

カラー付きの映画が他より早い年度に公開されている植民地は映画技術が早い



植民地全体の傾向として

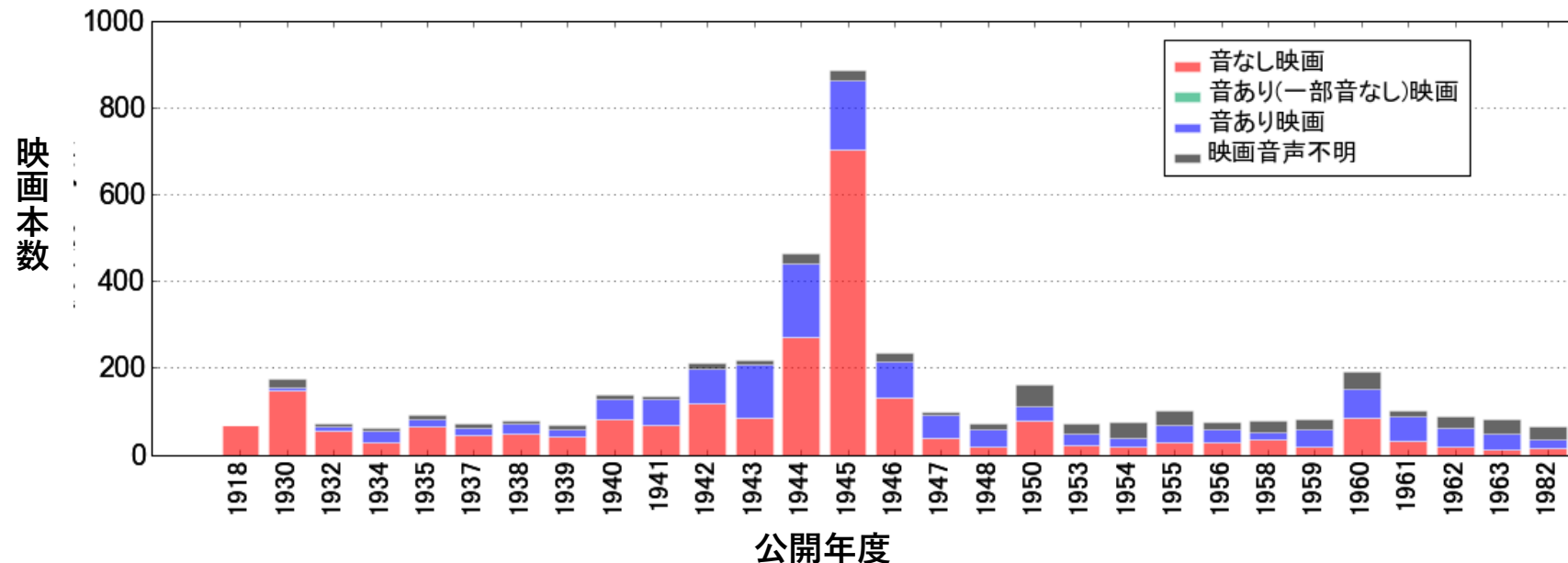
- 1940年以前は、白黒映画が多くを公開されているが、  
1940年以後を契機にカラー映画が植民地に多く公開され始めた
- 1940年前後がカラーに関する技術導入のタイミング

## 植民地全体における公開年度と映画音声

- 植民地全体で公開された映画の年度と映画音声に着目
  - 公開された映画は、音なし・音あり(一部なし)映画・音あり映画に分類

音ありの映画が他より早い年度に公開されている植民地は映画技術が早い

植民地全体におけるプロパガンダ映画公開年度とその音声



### 植民地全体の傾向として

- 1940年以前は、音声無し映画が多く公開されているが、1940年以後を契機に音声あり映画が植民地に多く公開され始めた
- 1940年前後が音声に技術導入のタイミング

# 植民地全体におけるプロパガンダ政策の分析から分かった事

- CFUがあった国では、他の国よりも多くのプロパガンダ映画が公開されるなどプロパガンダ映画政策が盛んな国であった
- プロパガンダ映画概要の単語頻度解析(スライド24)から植民地全体において植民地インドは特に重要な植民地であることが分かった
- 太平洋戦争が起きた1942-45年においてアジア植民地のプロパガンダ映画公開本数が急増し植民地全体における映画音声に関する技術導入が進んだことが分かった(スライド26)
  - 太平洋戦争の影響を受けたアジア植民地と受けていないアフリカ植民地では違いがあるのでは

次により詳しい分析のために

- ① 現代の映画産業が盛んであるナイジェリアの  
プロパガンダ映画の普及と映画概要の分析
- ② 第二次世界大戦の戦禍であったアジア植民地と  
そうでなかったアフリカ植民地の  
プロパガンダ映画の普及と映画概要の違いの比較分析

の2つを行いプロパガンダ映画政策の定量的な分析を行う

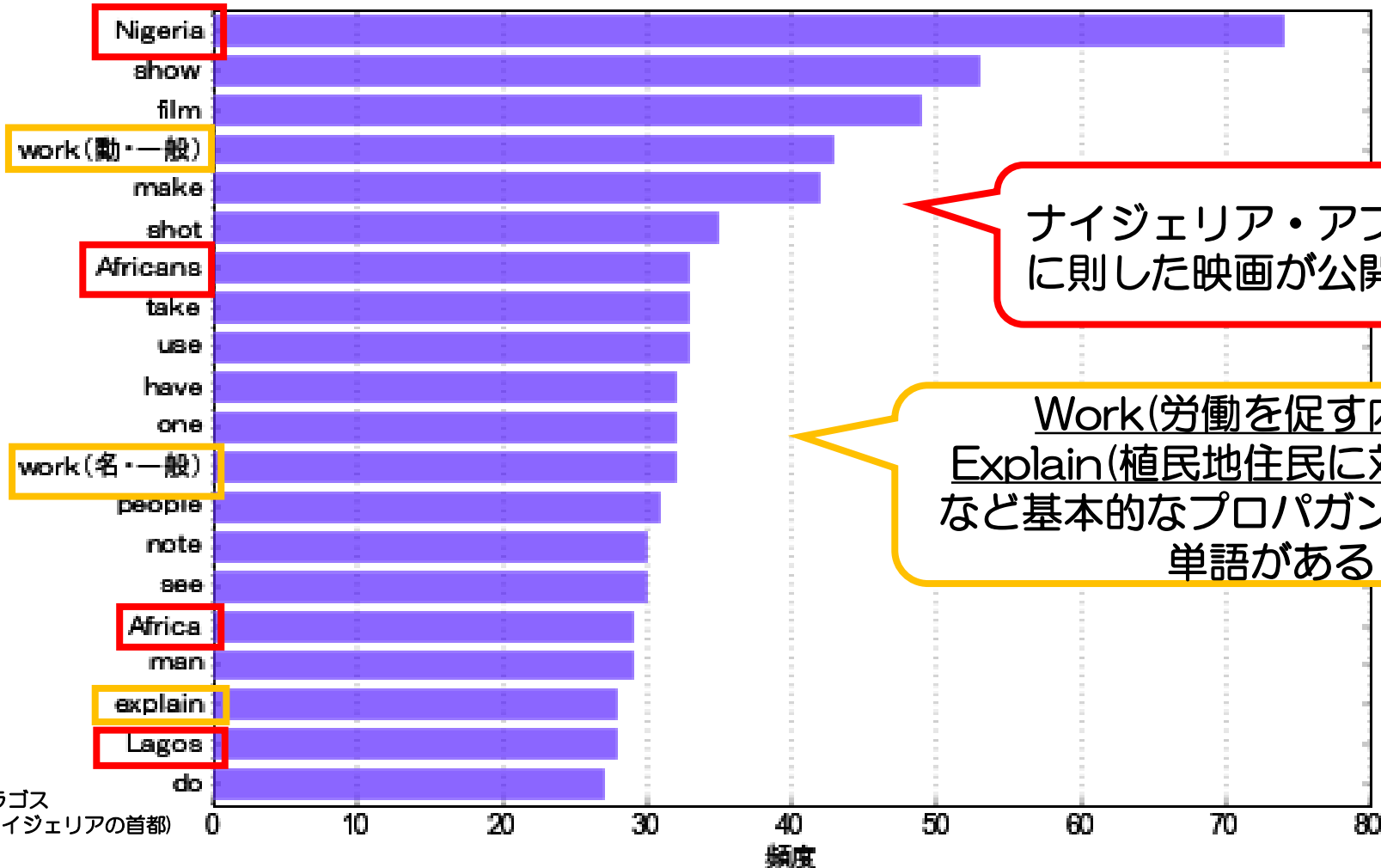
# 目次

## 4-2. ナイジェリアのプロパガンダ 映画政策分析

# ナイジェリアの単語頻度解析

- 植民地ナイジェリアで公開されたプロパガンダ映画の概要の単語頻度解析

ナイジェリア

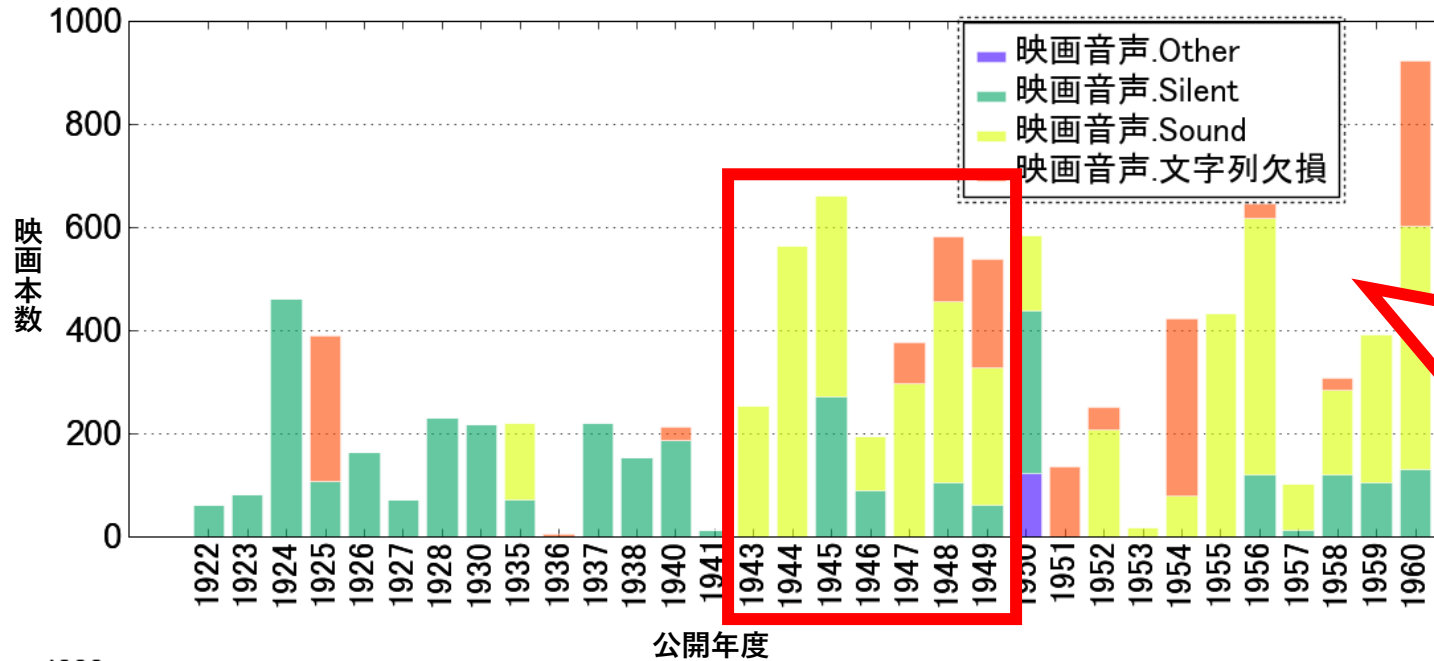


ラゴス  
(ナイジェリアの首都)

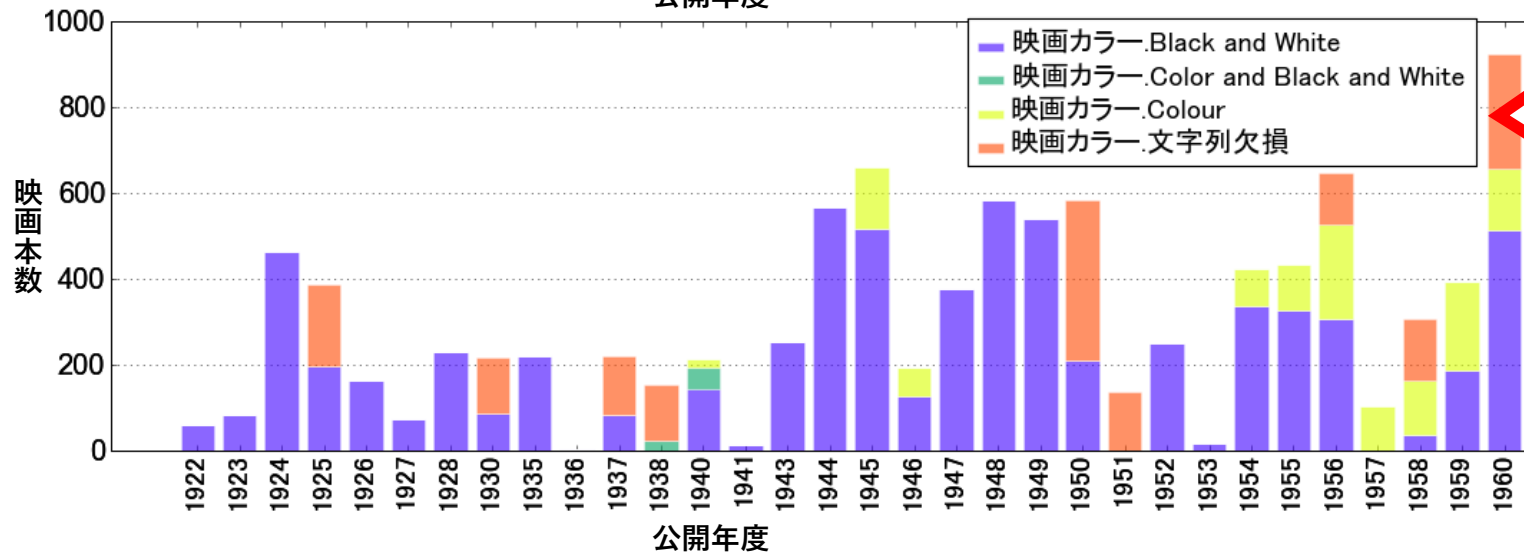
ナイジェリア・アフリカの現地に則した映画が公開されている

Work(労働を促す内容)や  
Explain(植民地住民に対する教育)  
など基本的なプロパガンダに関する  
単語がある

# ナイジェリアでの技術導入



植民地全体と同様  
(スライド26参照)  
1943~45年に  
多くの音あり映画を  
公開し始めている



カラー付き映画  
は、1954年頃  
から多く公開  
され始めている





## ナイジェリアの分析を通して

### 技術導入のビジュアル集計から

植民地全体の傾向同様、1945年から音あり映画を徐々に採用し始めていることからナイジェリアも太平洋戦争の影響を受けていたことが分かった

### 映画概要のことばネットワークから

ことばネットワークの市場的知識クラスターからナイジェリアにおいては戦争・教育に関する映画が重点的に公開されていたことが読み取れた

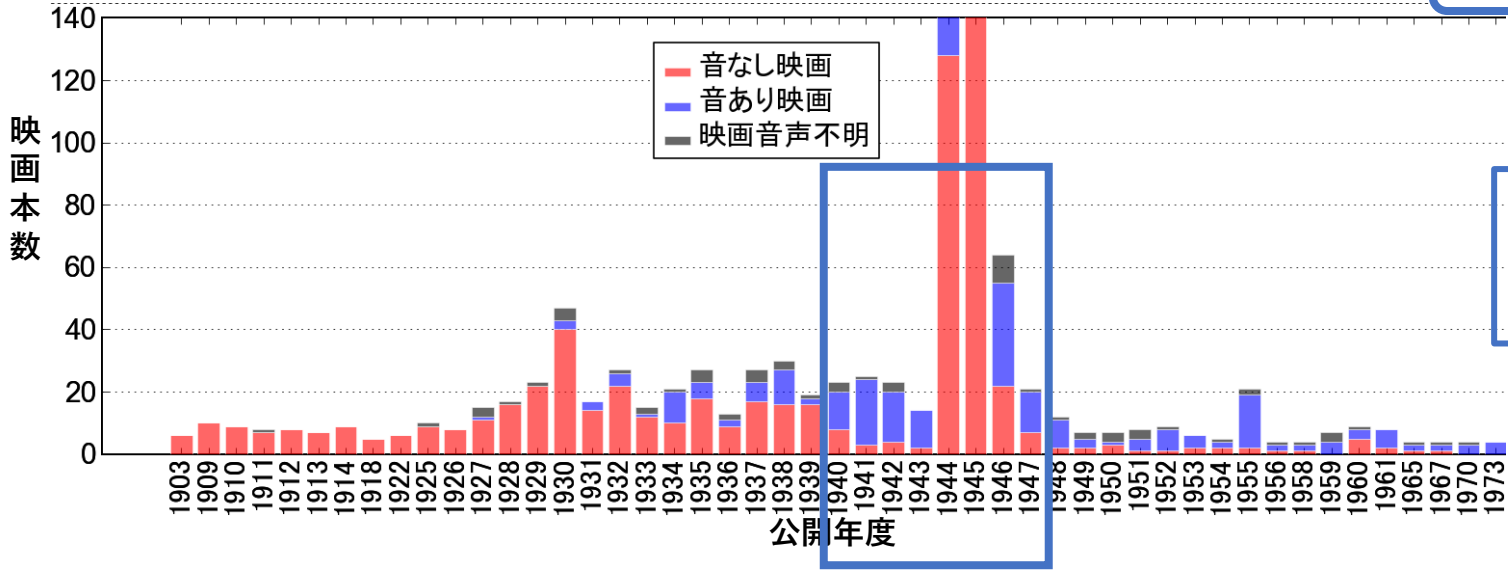
# 目次

## 4-3. アジア植民地・アフリカ植民地の プロパガンダ政策の比較分析

# アフリカ植民地とアジア植民地の映画音声技術導入の分析

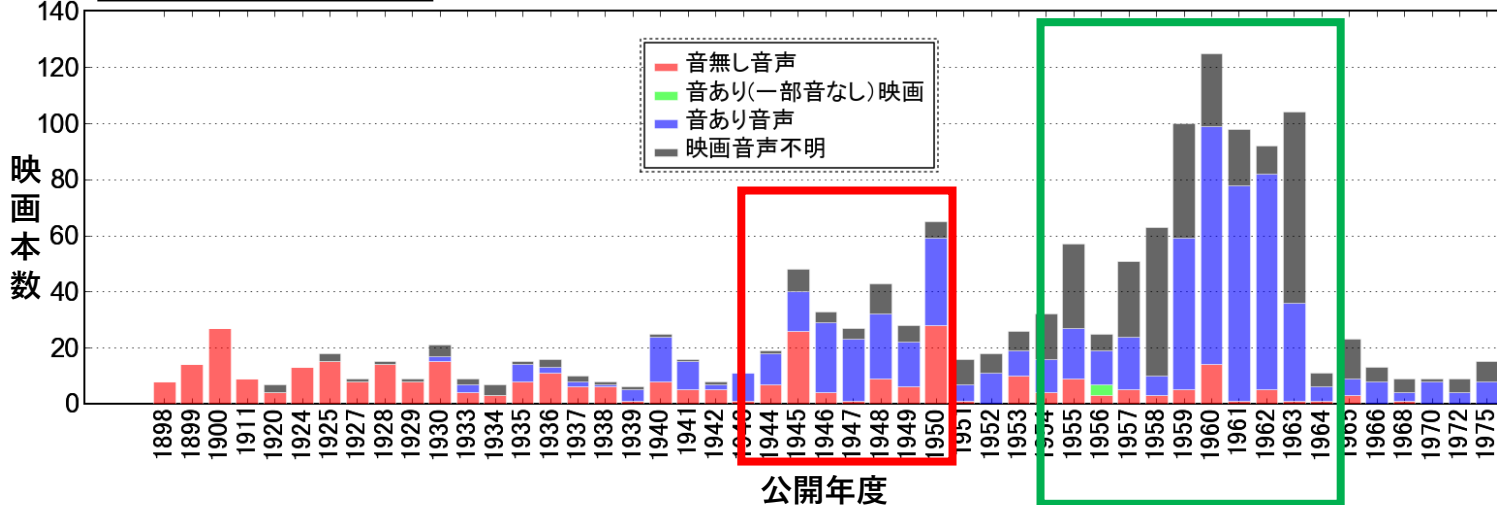
## アジア植民地

TMSビジュアル集計を使用



40-45年にアジア植民地において多く音あり映画が公開されている

## アフリカ植民地



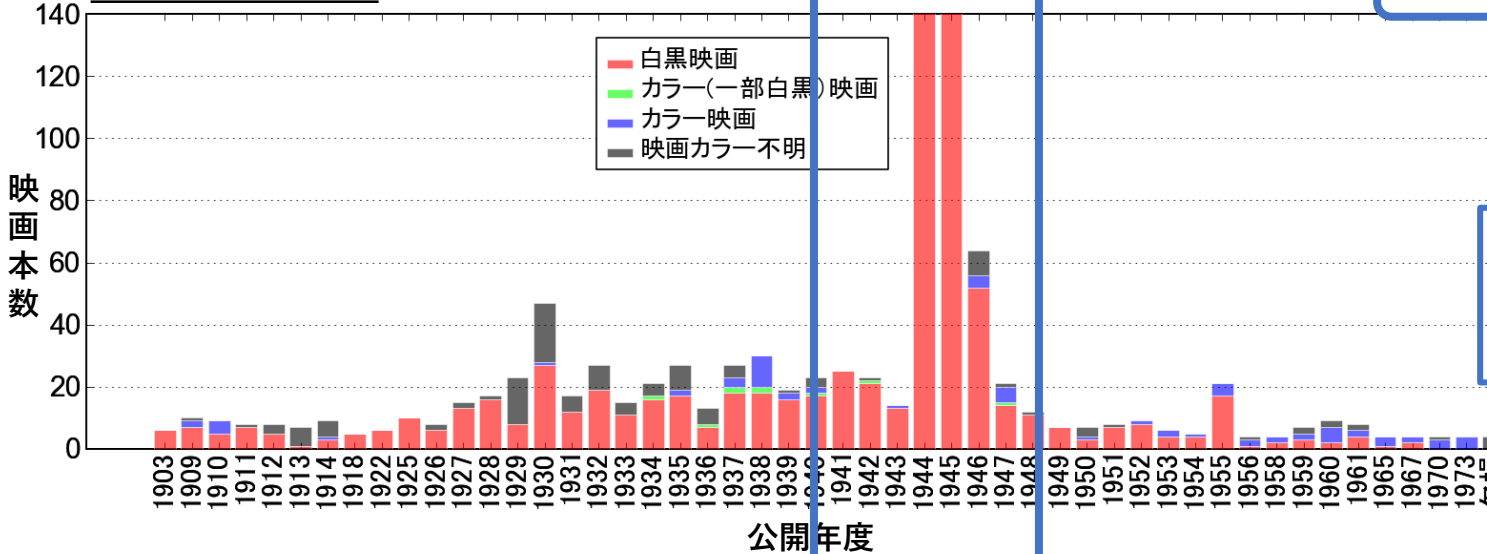
44-45年にアフリカ植民地において多く音あり映画が公開されている

55-56年にアフリカ植民地において多く音あり映画が公開されている

# アフリカ植民地とアジア植民地の映画カラー技術導入の分析

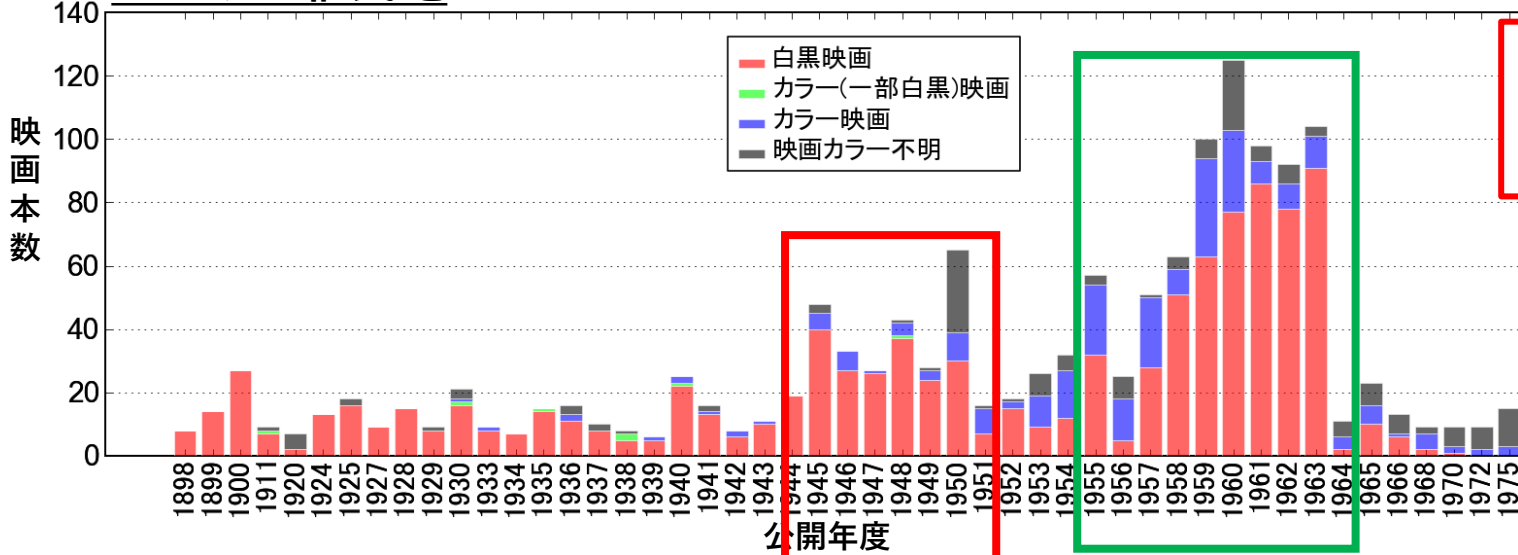
## アジア植民地

TMSビジュアル集計を使用



40-45年にアジア植民地において多くカラー映画が公開されている

## アフリカ植民地



44-45年にアフリカ植民地において少しカラー映画が公開され始めている

55-56年にアフリカ植民地に多く公開されるようになった

# アジア植民地とアフリカ植民地の技術導入のまとめ

## • アジア植民地

音あり映画・カラー映画共に1943-50年から多く公開され始めていたプロパガンダ映画の公開本数自体も同年に増加傾向

- 前スライドに記述の通り、第二次世界大戦の影響を大きく受けており、戦争が映画技術導入の契機になったと考えられる

## • アフリカ植民地

音あり映画・カラー映画共に1943-50年と1955-60年に多く公開されており、プロパガンダ映画の公開本数自体も同年に増加傾向

- 1943-50年における増加は、第二次世界大戦の影響がアジアより遅れて影響
- 1955-60年における増加は、アフリカ植民地で独立運動が起こったことが要因であると考えられる(Ex.アフリカの年)

✓ **アジアの方が映画技術の導入が早いですが、アフリカは2回技術導入の波が来ている**

植民地におけるプロパガンダ政策は、戦争や独立運動が起こると強くなり  
それに伴い映画の技術導入が促進していたことが分かった

# アジア・アフリカ植民地における映画概要の比較分析

アジアとアフリカから一つずつ植民地を選出し、ことばネットワーク分析の比較を行い、プロパガンダ政策の違いを確認

## アジア

### Malaya植民地(現マレーシア)

項目	値
総行数 (映画本数)	109
平均行数 (文字数)	2,848
総文章数	2,365
平均文章長 (文字数)	131.3
延べ単語数	39,446
単語種別数	10,366

を選出

独立年度:  
1957年

## アフリカ

### Gold Coast植民地(現ガーナ)

項目	値
総行数 (映画本数)	91
平均行数 (文字数)	3,788
総文章数	2,583
平均文章長 (文字数)	133.5
延べ単語数	45,633
単語種別数	10,760

を選出

独立年度:  
1957年

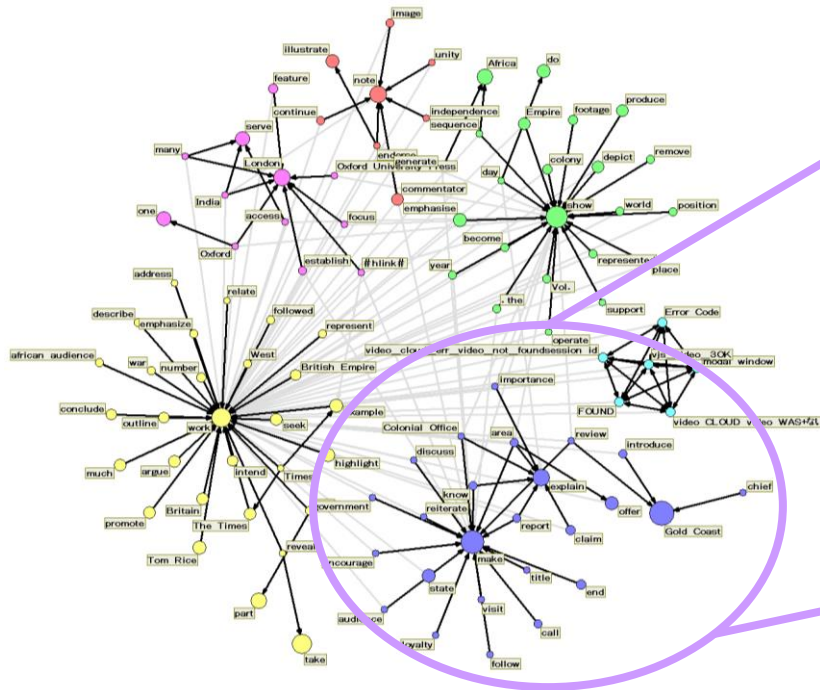
➤ 2国は比較しても  
問題のない差で  
あると考えた

- ✓ 共通の抽出指標でことばネットワークを行った  
共起関係を抽出・最低指標値:70・出現回数:8回以上 クラスタ数:6個  
最大で200ルールの共起関係を表示

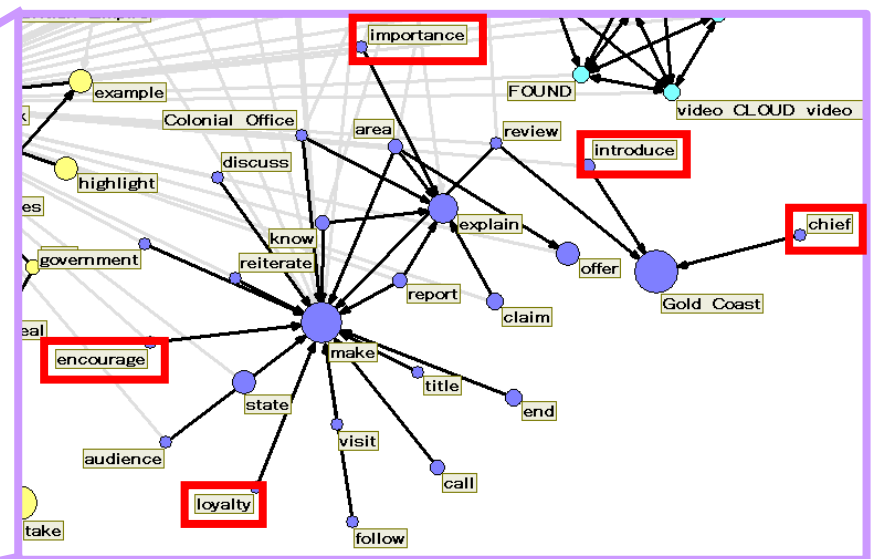


# アフリカ植民地:Gold Coastの映画概要のことばネットワーク

## 植民地Gold Coastの映画概要のことばネットワーク



## 市場的知識のクラスタ(スライド20参照)



- Gold Coastは、植民地時代は首長制社会を採用しており(SACKEYFIO-LENOCH, 2014)、chief(首長制)やloyalty(忠義)から、制度に関する知識を取り入れたプロパガンダ映画が公開されていたことが分かる

### chiefでの原文検索結果

Kumasi chiefs visit the ship, the Captain and chiefs shake hands (約:ガーナの首都クマシの首長がイギリスから来た船の船長と握手をした)

- 原文検索からガーナの首都クマシの首長とイギリス人が仲良くしている事を示すプロパガンダ映画であった事が分かった



# アジア・アフリカのことばネットワークでの比較分析まとめ

## アジア植民地(Malaya)においては

ことばネットワークから戦争に関する市場的知識を取り入れたプロパガンダ映画が公開されていた事が分かった

- 第二次世界大戦の影響が映画の技術導入だけでなく、プロパガンダ映画政策に影響していることが分かった

## アフリカ植民地(Gold Coast)においては

Gold Coast独特の制度や教育的な映画が公開されていたことが分かった

- 第二次世界大戦の影響を受けていない代わりに、introduceやEncourageなど教育的なプロパガンダ政策が行われていたことが考えられる

- ✓ **アジアでは第二次世界大戦の影響を受け、戦争に関するプロパガンダ政策  
アフリカでは教育に関するプロパガンダ政策が行われていた 可能性がある**

# 目次

## 5.結果と今後の研究の発展

# 結果

- 植民地全体のプロパガンダ映画をTMSのビジュアル集計で公開年度・公開本数・公開植民地などの項目から分析することによりプロパガンダ政策には太平洋戦争の影響が大きいことが分かった
- TMSのビジュアル集計を用いる事で植民地下におけるプロパガンダ映画の技術導入の早さを定量的に測る事が出来た。
  - 植民地間での技術導入の早さの比較分析をすることが出来た
- TMSのことはネットワークをもとにプロパガンダ映画の映画概要を分析することにより、膨大にある映画概要テキストデータから植民地下におけるプロパガンダ映画政策を可視化することが出来た。
  - さらにネットワーク上に出てきた単語の原文を見る事で、具体的なコンテキストでプロパガンダが行われているかを見ることができ、より詳しい考察が可能になった

## 今後の研究の発展

---

- 別の国の植民地のプロパガンダ映画に関する分析を行い比較をする
  - フランス植民地とイギリス植民地の比較分析など
- より植民地政策とプロパガンダ映画の関連を見るために、植民地政府が出した官報テキストデータや植民地における貿易に関するデータと結びつける
- テキストマイニングから得られた情報から指標を取得し、Alkanoなどを用いて定量的分析を行う
- 映画に関する早期技術導入やプロパガンダ映画公開本数が現代の映画産業の発展にどのように結びついているかを刷り込み理論 (Imprinting theory) をもとに分析 (次スライドに詳細)

# プロパガンダ映画と刷り込み

## 刷り込み理論 (Imprinting theory)

組織やその構造には設立した当初の政治的な影響や外部環境が刷り込まれ、その後の行動に影響を与える (Stinchcombe, 1965)

EX) 毛沢東の共産主義的なイデオロギーの時代に創業 → 中国企業は、国際化戦略に後ろ向きである (Marquis, 2020)

①

プロパガンダ映画政策は、映画産業が盛んではなかった植民地において映画というイノベーションを採用・普及する契機となる

②

プロパガンダ映画の公開は映画を見る植民地住民に大きな驚きを与え映画に対する興味・関心の刷り込みとして残った

③

現代の旧植民地の映画産業の発展

今回は①を分析したが、今後の研究ではイノベーションの普及がどのように独立後の映画産業に影響を与えたか(③)について分析する

# 目次

## 6.参考文献

## ● 参考データベース:

- Colonial Film Database <http://www.colonialfilm.org.uk/home>
- UNESCO Institute for Statistics <http://data.uis.unesco.org#>

## ● 参考文献:

- キム・ミヒョン『韓国映画史:開化期から開花期まで』, キネマ旬報社, 2010年.
- Bottomore, S., “*Filming, faking and propaganda: The origins of the war film, 1897-1902*” *Utrecht University*, 2007
- Cohen, W. M., and Levinthal, D. A., “Absorptive Capacity: A New Perspective on Learning and Innovation,” *Administrative Science Quarterly*, Vol. 35, No. 1, 1990, pp. 128-152.
- Francis, T., “Sounding the Nation: Martin Rennalls and the Jamaica Film Unit, 1951—1961.” *Film History: An International Journal*, Vol.23, No.2, pp.110-128,2011
- Hee, W. S., Anti-communist moving images and Cold War ideology: on the Malayan film unit. *Inter-Asia Cultural Studies*, Vol.18, No.4, pp.593-609., 2017
- Kogut, B. and Zander, U., “Knowledge of the Firm, Combination Capabilities, and the Replication of Technology,” *Organization Science*, Vol. 3, No.3, 1992, pp. 383–397.
- Lasswell, H. D., The theory of political propaganda. *American Political Science Review*, 1927, Vol.21, No.3, pp. 627-631.
- Leiponen, A., “Why Do Firms Not Collaborate? Competencies, R&D Collaboration, and Innovation under Different Technological Regimes,” in Kleinknecht, A. and Mohnen, P. (eds.), *Innovation and Firm Performance: Econometric Exploration of Survey Data*, London, Palgrave, 2002, pp. 253–277
- Marquis, C., & Qiao, K., “Waking from Mao’s dream: Communist ideological imprinting and the internationalization of entrepreneurial ventures in China.” *Administrative Science Quarterly*, Vol.65, No. 3, 2020, pp. 795-830.
- Newell, S., “The Last Laugh: African Audience Responses to Colonial Health Propaganda Films,” *Cambridge Journal of Postcolonial Literary Inquiry*, Vol. 4, No. 3, 2017, pp. 347-361.
- Rogers, E., *Diffusion of Innovations*. NY, Free Press, 1995.

## 参考文献②

---

### ● 参考文献:

- SACKYFIO-LENOCH, N., *The Politics of Chieftaincy: Authority and Property in Colonial Ghana, 1920-1950* (NED-New edition). Boydell & Brewer. <http://www.jstor.org/stable/10.7722/j.ctt5vj7jm>, 2014
- Sellers, W., “Making Films in and for the Colonies,” *Journal of the Royal Society of Arts*, Vol. 101, No. 4910, 1953, pp. 829-837.
- Smyth, R., “The Development of British Colonial Film Policy, 1927-1939, with Special Reference to East and Central Africa.” *The Journal of African History*, Vol.20, No.3, pp.437–450, 1979
- Stinchcombe, A.L., “Social Structure and Organizations,” in J.G. March (ed.), *Handbook of Organizations*, Chicago, IL: Rand McNally, 1965, pp. 142-193.